後　記

年々、新進の会員の参加によって、大会はここ数年来百人を超す盛況である。また、村研会員を核とする「村落研究」の会が、各地区ごとに組織され、活発化しつつあることも、近年における新しい動向のように思われる。村研は、特定の思想なり考え方に統御されない自由な集団である点に、一つの特色がある。そうした特色をこれまで持続してきた基礎には、つねに実証研究を根幹とする伝統が大きく寄与していたように思う。ややもすれば頭デッカチになりがちな研究会を、足太く成長させてきたところにその秘訣があったのであろう。会員の中には数こそ少ないが、営農に携っている方のいることも貴重である。そうした方々の声も積極的に吸収し、清新な血液を注入して梅原龍三郎の描く体駆の女性像のように、土の匂いに満ちた逞しさを培ってゆきたいものだと思う。地区の研究会活動にそうした契機の孕むことを秘かに期待したいものである。

「会員動向」欄でお知らせしましたように、今回、森嘉兵衛会員が退会されることになりました。惜しまれてなりません。これまでの御指導を謝すると共に、一日も早くご健康を回復され、再び研究会で元気なお姿のみられますことを祈念して止みません。

寝正月の延長による弛緩した精神構造の中で、「研究通信」の発行という現実にひきもどされ、ようやく一〇九号をお届けすることができた。といっても、例年の事務局の慣例からすれば二カ月のおくれである。昨今の国鉄同様に遅れを取戻す自信がないので大言は慎しまなければならないが、冒頭に掲載した、三人の方々の力のこもった印象記の寄稿によって多少救われたような気持である。御多用中のところ御高文を寄せていただいた三会員に御礼を申し上げたい。また、前事務局の山本、宮川両会員からは懇切周到な配慮のもとに事務引継ぎさせていただいた。今後の一年間、会員の皆さんの叱咤に励まされ、事務局の大任を果したいと思っている。一層の御支援をお願いしたい。

なお、事務局の所在は、宇都宮大学教育学部社会学研究室（〒320・宇都宮市峰町三五〇）ですが、お急ぎの場合は、〒165・中野区若宮一―五六―十二―七（自宅）に御連絡下さるよう願います。御不便をおかけすることになる点をお許し下さい。

（柿崎京一）